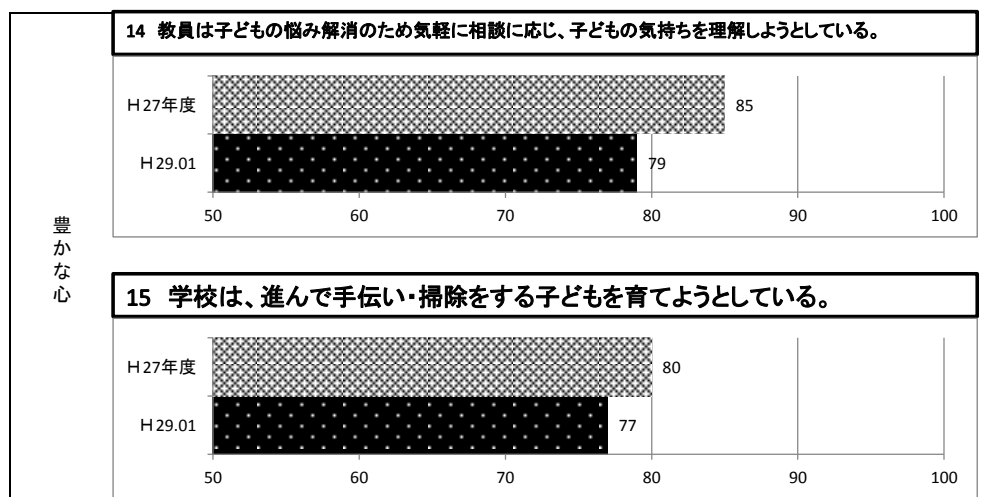
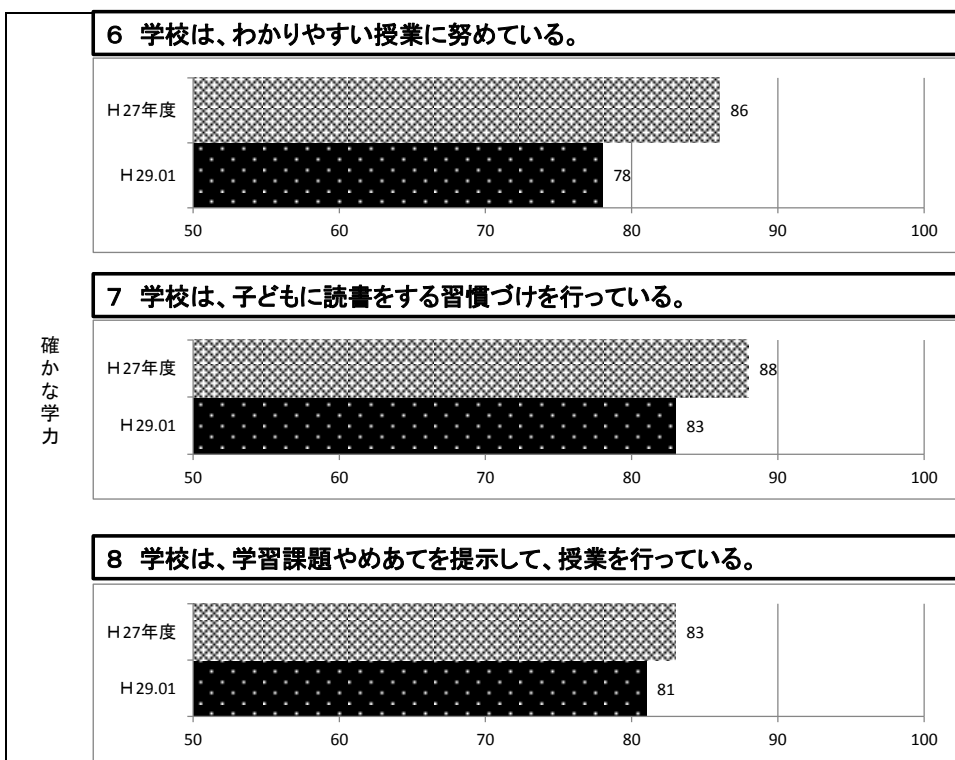
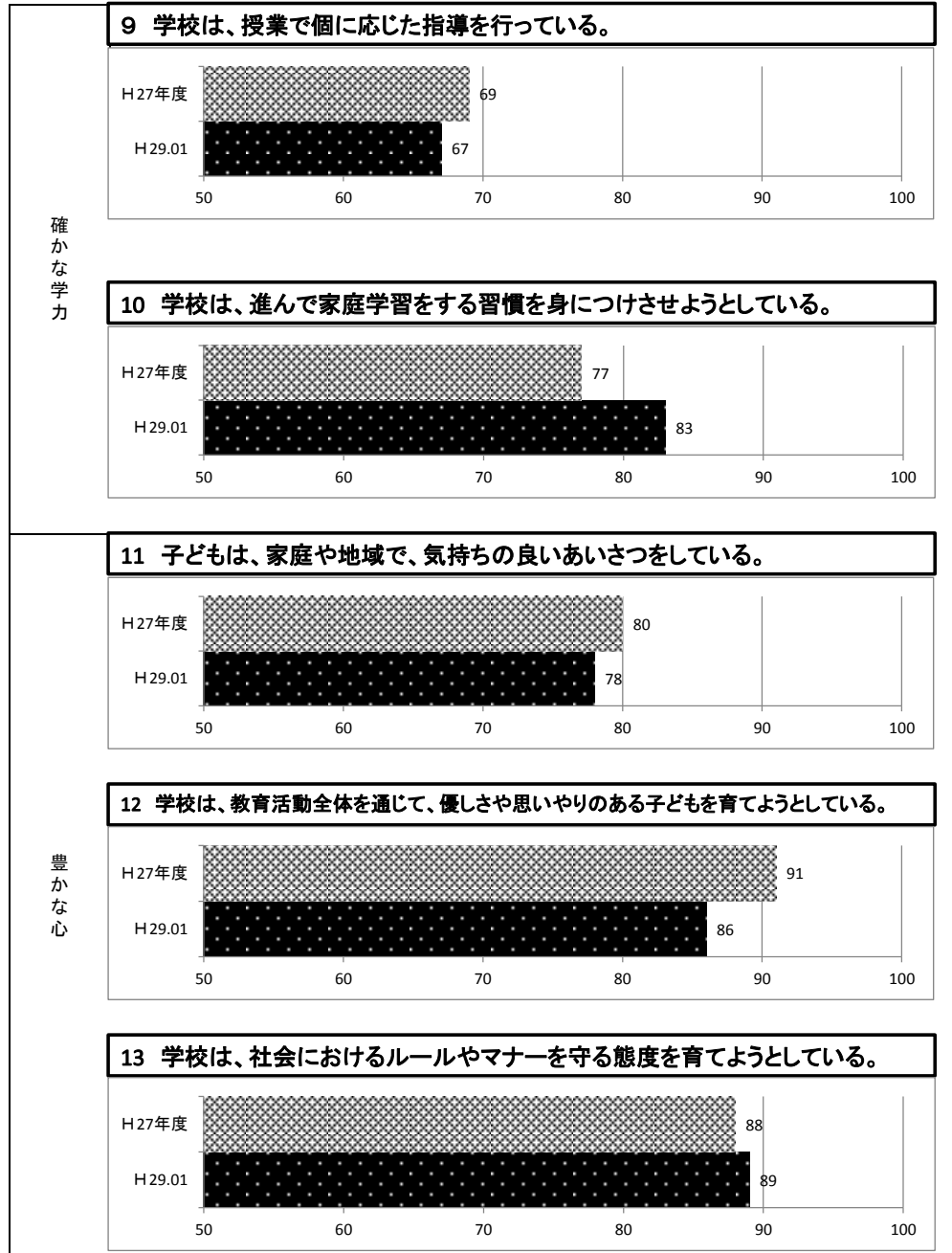
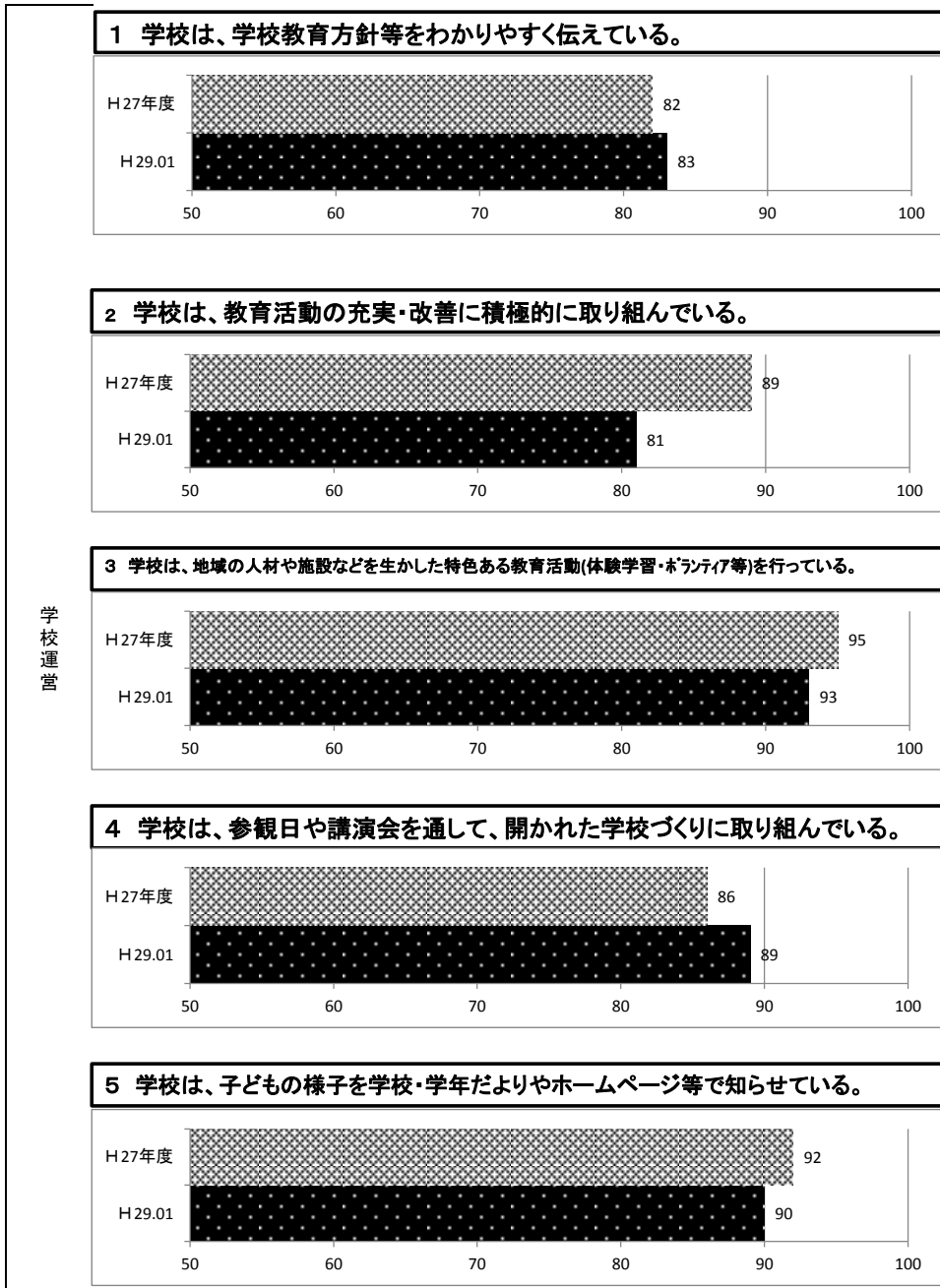


平成28年度 学校評価 保護者アンケート 29年1月実施結果



(考察) 全体的に見ると、6割の項目で、昨年度より低い評価結果となっており、学校の取組が保護者に十分伝わっていないように感じた。特に昨年度より低い評価を得た「6学校はわかりやすい授業に努めている」や「14教員は子どもの悩み解消のため気軽に相談に応じ、子どもの気持ちを理解しようとしている」という問いについては、生徒アンケートの「先生は授業でわかりやすく教えている」が98%、「先生は自分の気持ちを理解してくれていると思う」が93%と昨年度より高い評価を得ているのに対して、保護者には生徒アンケートと大きく異なる結果となった。このズレを解消するために、生徒の学校での様子を、参観日や講演会、学校行事等で積極的に見て知ってもらう手立てを講ずること、更にHP、学校だより、学年だより、学級だより等を活用し、生徒の活動を細やかに発信していく必要がある。これらの結果を反省してみると、HPの更新が10月初旬までほとんどできておらず、最新の情報が提供できなかったことが一つの要因としてあげられる。現在では、事あるごとにHPの更新を行うようにしている。また、HPをよく見ってもらうように、働きかけることも必要であろう。

本校が力を入れている「確かな学力」に関して、高い評価をいただいたものとして、「10学校は、進んで家庭学習をする習慣を身につけさせようとしている」という項目で昨年度より6ポイント伸びている。本年度から、自主学習ノートを生徒が1冊仕上げるたびに、保護者にコメントやサインをしていただく取組をはじめた成果ではないかと考える。また、自主学習ノートの効率的な取組を学習委員会が提案し、生徒同士で共有していくことで実りのある学習が行われてきている。これからも、学校と保護者が互いに協力し合い、学校そして家庭の中で生徒の学習に関わっていき、学力向上に努めていきたい。

「豊かな心」に関しては、「13学校は、社会におけるルールやマナーを守る態度を育てようとしている」が89%と昨年より上がり、生徒と教職員は100%の者がルール(決まり)やマナーを重んじているという肯定的な結果となった。今後も規範意識の高い生徒をより成長させることが、落ち着いた学校生活につながり、思いやりのある温かい学校づくりにつながると考える。